



平成28年度

学校評価報告書

平成29年3月作成

二七〇町学校評価委員会

～ 目次 ～

○	はじめに	P 1
1	平成28年度の委員会活動の状況	P 1
2	各学校・幼児センター共通の重点目標、評価の観点	P 3
3	各学校・幼児センターにおける評価結果	
	【No.1】共通重点目標 「分かる授業」を目指した授業改善の推進 (幼児センター:「楽しく遊ぶ」ことができる環境構成)	P 5
	【No.2】共通重点目標 特別支援教育の充実	P 7
	【No.3】共通重点目標 読書活動の推進	P 8
	【No.4】共通重点目標 いじめ・不登校児童生徒への対応と強化	P 10
	【No.5】共通重点目標 基本的な生活習慣の定着・向上	P 11
	【No.6】共通重点目標 地域との連携	P 13
	【No.7】共通重点目標 学校間の連携	P 14
4	ニセコ町全体としての評価のまとめ	
	【No.1】共通重点目標 「分かる授業」を目指した授業改善の推進 (幼児センター:「楽しく遊ぶ」ことができる環境構成)	P 16
	【No.2】共通重点目標 特別支援教育の充実	P 17
	【No.3】共通重点目標 読書活動の推進	P 18
	【No.4】共通重点目標 いじめ・不登校児童生徒への対応と強化	P 18
	【No.5】共通重点目標 基本的な生活習慣の定着・向上	P 19
	【No.6】共通重点目標 地域との連携	P 19
	【No.7】共通重点目標 学校間の連携	P 20
5	今後の取組について	P 21
6	ニセコ町学校評価委員会 構成委員	P 22

◎ はじめに

ニセコ町教育委員会では、平成24年度に文部科学省の委託研究事業「実効性の高い学校評価・情報提供の充実・改善に向けた取組に関する事業」を受託し、平成25年3月に「ニセコ町学校評価ガイドライン」を作成しました。

平成25年度からは、このガイドラインに基づいたニセコ町学校評価委員会を組織立てし、幼児センター・各小中高等学校の学校評価の取組みを進め、4年目を迎えました。

ニセコ町の学校評価の取組みの特徴は、幼児センターからニセコ高校までの子どもたちの成長過程について、設定した共通項目について同じ目線で捉えながら、子どもたちの成長を考えていくことです。

学校教育の業務は多岐に渡っておりますが、その中から共通の重点目標とそれに関わる共通の評価の観点を設定し、幼児センターからニセコ高校まで連携した学校評価を模索しながら進めてきました。

本報告書は、平成28年度の各学校の評価結果をもとに、ニセコ町全体の評価結果としてまとめたものです。

1 平成28年度の委員会活動の状況

① 第1回ニセコ町学校評価委員会

- 日程 平成28年6月1日（水）
- 場所 ニセコ町役場第2庁舎
- 内容
 - ・ 委員長及び副委員長の選出
 - ・ 各学校・幼児センターにおける本年度の学校評価について
 - ・ 共通重点目標の設定について
 - ・ 本年度の開催スケジュール

② 第2回ニセコ町学校評価委員会

- 日程 平成28年7月22日（金）
- 場所 ニセコ町役場第2庁舎
- 内容
 - ・ 共通重点目標に係る各学校・幼児センターの指標について
 - ・ 共通の評価の観点的作成について

③ ニセコ町学校評価委員会第1回作業部会

- 日程 平成28年8月2日（火）
- 場所 ニセコ町役場第2庁舎
- 内容
 - ・ 共通重点目標に係る評価の観点的について。
 - ・ 評価の観点的に基づく共通のアンケート項目について

- ④ ニセコ町学校評価委員会第2回作業部会
 - 日程 平成28年8月9日(火)
 - 場所 ニセコ町役場第2庁舎
 - 内容 ・共通重点目標に係る評価の観点及び共通アンケート項目について

- ⑤ 第3回ニセコ町学校評価委員会
 - 日程 平成28年9月26日(月)
 - 場所 ニセコ町役場第2庁舎
 - 内容 ・共通重点目標に係る共通の評価の観点とアンケート項目について
・共通重点目標に係る評価結果の付け方について
・ニセコ町学校評価委員会の報告書様式について

- ⑥ 第4回ニセコ町学校評価委員会
 - 日程 平成29年3月22日(水)
 - 場所 ニセコ町役場第2庁舎
 - 内容 ・共通重点目標に係る各学校・幼児センターの評価結果及び
ニセコ町としての評価結果のまとめについて

2 各学校・幼児センター共通の重点目標、評価の観点

ニセコ町学校評価委員会及び同委員会作業部会において、ニセコ町の幼児センターからニセコ高校まで全部の学校が同じ視点で評価を行うことから、ニセコ町学校評価ガイドラインを参考として、平成28年度の共通の重点目標、共通の評価の観点、共通のアンケート項目を設定しました。

本年度は、共通重点目標の絞込んだうえで、取組み指標から成果指標へと指標の充実に関心を置くこととし、7項目(昨年度比で1項目増)の共通重点目標を設定しました。

平成28年度 学校評価 共通の評価の観点及びアンケート項目

項目	共通重点目標	参考キーワード	共通の評価の観点	アンケート項目		
				教職員向け	児童生徒向け	保護者向け
分かる授業、楽しい学校・幼児センター	No.1 「分かる授業」を目指した授業改善の推進(幼児センター:「楽しく遊ぶ」ことができる環境構成)	・授業改善に向けた取組み (校内研修、指導方法の改善等)	①授業改善のための校内研修の充実 ②効果的な指導方法や指導形態の工夫 ③教育課程改善に向けての取組 ④児童生徒アンケートの結果	①校内研修の充実により分かる授業づくりが進められている。 ②ICT機器活用等、効果的な指導方法や指導形態が工夫されている。 ③全教育活動を通じて、組織的な取り組みが進められている。 ④児童生徒の評価を生かして授業改善を進めている。	①学校での学習は、よくわかる。	①学校は、分かりやすい授業をめざして教育活動に取り組んでいる。
	No.2 特別支援教育の充実	(前年度と同様) ・保護者の理解、児童生徒相互の理解(仲間意識) ・特別支援教育の校内支援体制の充実	①配慮を要する幼児、児童生徒に対する支援のための研修の充実・関係機関との連携 ②個別の教育支援、指導計画の作成・実施 ③特別支援学級への校内支援体制の充実 ④特別支援教育への保護者理解・児童生徒相互理解	①特別支援教育についての研修に積極的に取組み、授業や教育課程の改善が図られている。 ②個別の指導計画、教育支援計画が整備され、個に応じた指導が行われている。 ③支援が必要な子に対して、周囲が理解し認めていける集団作りが行われている。 ④特別支援教育の充実に向けて関係機関と連携している。		学校は、特別支援教育の充実(保護者の理解促進等)に努めている。
	No.3 読書活動の推進	(前年度と同様) ・朝読書(一斉読書)の取組状況 ・図書館利用、読書活動の状況 ・「あそぶつく」との連携	①朝読書(一斉読書)の取組み状況 ②図書館利用、読書活動の状況 ③「あそぶつく」との連携	①児童生徒の読書習慣の確立に向けた取組みがなされている。 ②学校図書館やあそぶつくは、利用されている。	①本を読むことが好きだ。 ②学校図書館やあそぶつくを利用している。	①子どもは、家庭で本を読んでいる。 ②子どもは、あそぶつくや学校図書館を利用している。
	No.4 いじめ・不登校児童生徒への対応強化	・児童生徒アンケートや職員交流による実態把握と情報共有 ・いじめを生まない児童生徒の交流活動の推進 ・いじめ・不登校に対する組織的な対応・関係機関との連携	①児童生徒アンケートや職員交流による実態把握と情報共有 ②いじめを生まない児童生徒の交流活動の推進 ③いじめ・不登校に対する組織的な対応 ④関係機関との連携	①学校はアンケートや相談活動等の実態把握を基にして、組織的な情報共有と生徒指導を行っている。 ②学校は教師と生徒、生徒相互の信頼関係を築く教育活動を行っている。 ③いじめ防止や不登校解決に向けた関係機関と連携した取組を行っている。	①自分の様々な悩みや相談ごとを聞いてくれる人が身近にいる。 (いじめ防止アンケート結果から相談先を明らかにする)	①学校は教師と生徒、生徒相互の信頼関係を築く教育活動を行っている。 ②学校はいじめや不登校についてアンケートや相談活動等の実態把握に努めている。 ③いじめや不登校等で困ったときは学校に相談できる。
	No.5 基本的な生活習慣の定着・向上	・家庭との連携 ・アンケートによる実態把握 ・早寝早起き朝ごはん ・あいさつ、返事ができる	①家庭との連携 ②生活学習アンケートの実施 ③生活習慣の把握、定着	①全教職員の共通理解のもと、あいさつや身だしなみ、持ち物などの基本的な生活習慣の指導がなされている。 ②生活学習アンケート等による児童生徒の実態の把握に努めるとともに、のぞましい生活習慣の定着・改善に向けた取組が進められている。	①規則正しい生活を心がけている。 ②毎日、朝食をしっかりと食べるように心がけている。 ③自主的な家庭学習に取り組む、忘れものをしないように心がけている。 ④学校にかぎらず、自ら進んで挨拶をしている。	①子どもは、規則正しい生活を送っている。 ②子どもは、朝食をしっかりと食べてから登校している。 ③ニセ町の子どもたちは、誰にでも自ら挨拶をしている。
家庭、地域、学校の連携	No.6 地域との連携	・地域の方をゲストティーチャーなど、積極的な外部人材や地域の教育資源の活用 ・地域の関係機関との連携	①地域の方をゲストティーチャーに迎えるなど、積極的な外部人材や地域の教育資源の活用 ②地域の関係機関との連携	①地域の教育資源を取り入れた、効果的な教育活動が進められている。 ②学校は、地域の関係機関と連携したり、行事を利用した教育活動を進めている。	①町内の施設を利用したり、講師を活用する授業が、自分にとって役立った。 ②地域の行事に積極的に参加している。	①学校は、外部講師や関係機関を利用した教育活動を行っている。
	No.7 学校間の連携	・参観日への積極的な参加 ・CSや小中一貫教育についての理解	①学校間相互による参観の実施 ②学校間相互による交流や乗り入れ授業 ③CSを含めた小中一貫教育の理解	①他校への参観を行っている。 ②研修や資料などを通して、CS・小中一貫教育の理解が進んでいる。		

3 各学校・幼児センターにおける評価結果

平成28年度における共通の重点目標、評価の観点、アンケート項目により、各学校・幼児センターで学校評価の集計を行い、各学校・幼児センターごとの共通項目の評価結果を作成しました。

各学校・幼児センターの取組に対する評定結果として「A」「B」「C」「D」の4段階評価をつけています。

【No.1】 ・共通重点目標 「分かる授業」を目指した授業改善の推進
(幼児センター:「楽しく遊ぶ」ことができる環境構成)

・共通の評価の観点

- ① 授業改善のための校内研修の充実
- ② 効果的な指導方法や指導形態の工夫
- ③ 教育課程改善に向けての取組
- ④ 児童生徒アンケートの結果

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
幼児センター	<ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃの入れ替えをしたり、環境を再構成したりして、楽しめるように取り組んだ。 ・指導主事訪問は1回となったが、来年度の全道研に向けて、管内園の公開保育研修会に全員が参加するなどして研修した。 ・保護者アンケート結果から、センターへ行くことがあまり楽しみではないと回答した家庭が1割いた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの達が好きな遊びを見つけて、センターに来るのが楽しみになるよう、子どもの内面をしっかりと捉えて保育できるよう環境の構成を大切に保育していく。 ・研修に積極的に参加し、研修報告をして内容をみんなで共有できるように努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者のアンケートで行きたがらない子がいるのは、全て幼児センター側の理由ではないのではないか。 ・狭い環境の中ではあるが、工夫して取り組んで欲しい。 ・研修に積極的に参加し、子どもが楽しく学ぶことが出来る活動作りに努めて欲しい。
ニセコ小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修に積極的に取り組み、学習指導の改善・充実が図られている。(研究授業7回、指導主事訪問2回、全道特別活動研究大会11月18日) ・パソコンや実物投影機などのICT機器を有効活用している。 ・授業内容がわかりやすいと子どもたちの評価が高い。複数体制での指導や3階多目的教室などの利用が効果的で、安心感を与えている。(1・2年生全教科、3～6年生の国語、算数) ・教育課程は、地域や子どもたちの実態を考慮し、適切に編成されている。特に、学校行事では、子どもたちの成長が感じられると保護者の評価は高い。 ・児童の評価を活かした授業改善に課題があったが、評価結果を活かした授業改善に努めていた。 ・家庭学習(自学)の取り組みに課題がある。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も校内研修に積極的に取り組み、授業の改善・充実を図る。新学習指導要領に向けての準備を進める。 ・ICT機器の有効的な活用方法の研修を行っていく。 ・複数体制での指導では、打ち合わせをしっかりと行う。 また、習熟度別学習のために多目的教室などの効果的な活用を行う。 ・保護者(地域)や子どもの実態を考慮しながら、適切な教育課程の編成・実施に努める。 ・家庭学習(自学)の取り組みでは、ノートへのコメントの記入や声かけなどをして子どもたちの意欲を高めていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習(自学)でのノートへのコメントの記入が良い。意欲付けになっている。 ・ICT機器を使うなど、色々と指導方法を工夫していて、先生方は努力していると思う。 ・子どもたちが勉強が楽しい、よくわかると感じているのがとても良い。楽しいと思うことが学力の向上につながっていると思う。

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
近藤 小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・[わかる], [できる], [楽しい]を実感できる授業づくりを研修し, 国語科研修会・二重交流算数科研修会で実践発表した。 ・外国語活動の教育課程を見直し, H30 先行実施の英語科へ向けた整備を推進した。 ・個に応じた学習指導を行い, わからないままの子をつくらない指導を実践した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・複式授業で実践している すきま学習 の内容充実を図っていく。 ・近藤スタンダードの実践を通して, 改善充実を目指し, 更に効果の上がる学習づくりを推進させていく。 ・放課後時間などを有効に活用し, 個に応じた学習支援を創造していく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・わからない子を出さない取組みがよい。今後も, 個別支援を継続させていくとよい。家庭と連携が大切である。 ・期間に限定がある地域素材の活用(新幹線のトンネルや国営農場整備等の工事現場の見学)を考えに入れて取組むとふるさと理解の教育につながる。
二セコ 中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・「教えること」「考えること」を意図的に整理し生徒が主体的に学ぶ授業の構築・学習課題の明確化と提示の工夫 ・指導のための言葉の工夫による思考の活性化 ・問題解決、課題追究時における自力解決の時間確保 ・グループ等による学び合いの重視した授業内容の充実 ・「学習の手引き」を活用した学習内容の定着や活用力を育成する場を設定し、補充学習、自主的学習習慣の確立のための手立て(定期テスト前・長期休業中教科相談の活用等)の継続した実践。 	B	<p>生徒の授業評価は非常に良い結果となっているが、保護者アンケートの評価が低い。取組内容としては十分と考えられるが、保護者への情報の伝達をより一層工夫していくことで家庭学習の習慣化の啓発にも繋がり、理解を得ながら進めていくことができる。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・英語については、実践的な授業の工夫をしていくことが必要である。
二セコ 高校	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善のための校内研修として、アクティブラーニングの効果的な指導方法について研修を実施した。 ・生徒による授業評価を全教科で実施し、授業改善に生かした。 ・基礎学力テストを実施し、社会に必要な基礎学力の定着に努めた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・校内・校外での研修の成果を全体で共有し、授業改善により一層生かす。 ・校内での互見授業を充実させ、生徒の実態に合わせた指導方法を共有する。 ・授業で生徒を成長させることを目的に、家庭学習の習慣化を図るため週末課題等を課す。 ・生徒の授業アンケートの改善を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業までには基礎学力をしっかり身に付けさせて社会へ送り出してほしい。 ・資格取得について受検者が増加するような「やる気を出させる指導」や「社会で求められる資格は何か」を精査して積極的に取り組ませ、合格させる指導をお願いしたい。

【No.2】 ・共通重点目標 特別支援教育の充実

・共通の評価の観点

- ① 配慮を要する幼児、児童生徒に対する支援のための研修の充実
- ② 個別の教育支援、指導計画の作成・実施
- ③ 特別支援学級への校内支援体制の充実
- ④ 特別支援教育への保護者理解

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
幼児センター	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者とは日頃から様子を伝えるなどして共通理解し、学期ごとに面談をもち保護者と共によりよい育ちの支援が出来るように努めた。 ・児童デイの先生や保健師に、園での様子を見学していただきケア会議を開き、共通理解に努めた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との連携を密にし、よりよい支援が出来るよう努める。 ・担任や支援担当者と支援会議を設けて、職員が共通の支援を行えるようにしていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との共通理解を図ることは大切。外部の専門家等を積極的に活用し、具体的な指導・支援ができる体制作りを努めて欲しい。
ニセコ小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・余市養護学校しりべし学園分校のパートナーティーチャー、スクールカウンセラー訪問を実施し、特別支援学級児童や通常学級の特別に支援が必要な児童についての助言を受けた。 ・特別支援学級担当は週に1回打ち合わせを持つとともに、後志特別支援教育連絡協議会主催の研修会や余市養護学校の研修会に積極的に参加した。 ・余市養護学校職員を講師に迎え研修会を実施した。 ・特別支援教育リーフレットを保護者に配布した。 ・保護者から相談があった場合には、関係機関に連絡を取った。必要な場合は、発達検査やカウンセリングを実施した。 ・校内特別支援委員会（月1回）を実施し、支援が必要な児童に対して情報を共有するとともに、支援方法を確認した。 ・ニセコ小学校での特別支援教育に関する情報提供が十分ではなかった。 ・ニセコ小学校での特別支援教育に関する保護者の評価は、0.2ポイント高くなった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育に関する知識や技能についての研修を行うとともに、研修会には積極的に参加する。 ・保護者からの相談事に対しては、丁寧に対応し、関係機関との連携が必要な場合には早急に連絡を取る。 ・余市養護学校、スクールカウンセラー、ことばと学びの教室、北海道立子ども総合医療・療育センター等と連携して、特別支援教育の更なる充実に努める。 ・校内支援委員会を定期的に開催し、支援が必要な児童に対しての支援を行っていく。 ・ニセコ小学校での特別支援教育に関する情報をおたよりやホームページ等で積極的に発信していく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・リーフレットを配布しているが、保護者は理解しているのだろうか。 ・個別に支援が必要な子への対応や保護者への対応などを丁寧に行っていると思うので高い評価をつけてもいいと思う。 ・交流学习の時、通常学級の子が特別支援学級の子に対して偏見はないですか？ ・今できることをニセコ小学校の先生方は、一生懸命にやっているとと思うが、保護者の理解を得るのは難しい。
近藤小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者からの教育相談の求めに対し、積極的に協議して改善を図ってきた。外部機関とも連携し経過観察も行ってきた。 ・支援学級児童の校内生活充実へ向け、環境整備を推進した。拡大教科書導入・支援備品の購入等を通し学習環境も整備した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との情報交換・共有を図り、児童の成長へ向け指導する。個人カルテを整備し全教職員で周知し共通理解を図る。 ・支援学級は、個に応じた教育課程の改善を推進させ学習効果を上げる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学級担任と保護者が話しやすい関係にあり、教育相談が円滑でよい。 ・どの特性の子であってもスムーズに中学校環境に馴染める配慮が必要である。小小交流など集合学習を積極的に行うとよい。

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
ニセコ中学校	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師を招聘した校内研修実施・生徒の実態や指導の状況にかかわる情報を共有した。 ケース会議やパートナーティーチャーと連携した指導の改善充実研修と各種会議を実施し、通常学級在籍の支援を要する生徒の個別の指導計画を作成した。 文書等による保護者への啓発。 	B	特別支援教育についても、校内体制を整え十分に対応できるようになってきた。保護者の学校評価アンケート結果では特別支援教育への理解はまだ低い。十分な取組を説明していくことで理解が深まると考えられる。	A	
ニセコ高校	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援委員会を定期的に開催し、個々の生徒の状況やその対応を協議することができた。また、学校、保護者、スクールカウンセラー、病院が連携し、生徒の支援について協議することができた。 生徒、保護者がスクールカウンセラーと継続的に教育相談を受ける体制づくりができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 管内他校の事例等を参考に、特別支援体制についての充実を図る。 生徒個々の支援計画や評価の在り方について検討していく。 生徒の支援の在り方について、スクールカウンセラーとの連携強化を図りながら、保護者への的確な情報提供と指導に対する理解・協力体制を構築していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> スクールカウンセラーを積極的に活用して課題を抱えている生徒に寄り添う指導をこれからも継続してほしい。 これからますます多様な生徒が入学してくることが予想されるので、研修を通して、それに対応できる組織づくりを進めてほしい。

【No.3】 ・ 共通重点目標 読書活動の推進

・ 共通の評価の観点

- ① 朝読書（一斉読書）の取組状況
- ② 図書館利用、読書活動の状況
- ③ 「あそぶっく」との連携

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
幼児センター	<ul style="list-style-type: none"> 毎日1冊以上の絵本を読み聞かせをした。また、季節ごとに絵本の入れ替えをし、子ども達にも興味をもって手に取れるようにした。 その日の読んだ本を紹介していき、保護者にも伝えるようにした。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 絵本の紹介をしてきたが、気付いていない保護者もいたので、紹介の仕方を今後は工夫していく。 支援センターの保護者向け本貸し出しコーナーに、絵本を増やし、センターの子ども達にも貸し出しを行っていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 幼少期から読書に親しむ習慣をつけることは小学校からの接続という点からも大切なので、保護者やあそぶっくなど地域の方等との協力体制を作りながら、一層の活動推進に努めて欲しい。

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
ニセコ小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・各学級朝読書を実施した。登校後に落ち着いた環境を作ること、スムーズに1時間目の学習に入ることができた。 ・読書好きで、あそぶつくや図書室の利用は多い。 ・児童会図書委員会が定期的な貸出や図書室整理を行った。 ・11月を読書月間に設定して通常の貸し出し業務以外に特別展示やポイントカードの特別な取り組みを実施したおかげで、本を借りる児童が増えた。 ・あそぶつुकの読み書かせを朝は13回、昼は4回実施した。また、図書室整理や飾り付けの支援を行ってもらった。 ・11月8日にはブックフェスティバルを実施した。 ・児童会図書委員会が2回の選書を行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も朝の活動に読書活動を取り入れ、落ち着いた状態で1時間目の学習に入れるようにする。 ・朝の読み聞かせは、子どもたちにとって本に親しむ貴重な機会になっている。特に低学年の子どもたちは、大変楽しみにしている。次年度も引き続き朝の読み聞かせを実施する。 ・読書月間の特別な取り組みは大変好評だった。次年度も新しい企画を取り入れながら、子どもたちの読書活動の充実に努めていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ニセコ小学校の読書の取組はすごいと思う。他の地域に自慢できる内容である。 ・学校では、本を読んでいるが、家庭の読書の習慣は、低いのではないのでしょうか？ ・朝の読書は、みんなで読むので大変良い。 ・朝の読み聞かせの時間、静かに聞くようになって、聞く態度が良くなった。
近藤小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・全校一斉朝読書時間の確保により読書習慣を身につけてきた。毎年楽しんでいる ・あそぶつुकのイベント来校も読書に関心をもつきっかけになっている。今年度は、地域のボランティアも招聘して読み聞かせをしていただき、読書を楽しむ機会を増やした。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・校内では全般的に読書を好む傾向にある。家庭でも読書時間を確保し継続させる必要が感じられることから、家庭との連携を通して読書習慣を育んでいく。 ・地域からの人材活用の求めもあり、時間を設定して活用を推進させていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校で進めている読書活動の啓発には効果を感じられる。家庭にも読書習慣が身に着くよう働きかけるとよい。 ・地域の人材活用は、近藤地区に限ることなく、CSの活動で広角的に行える見込みがある。
ニセコ中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・7月と12月に読書週間と朝読書活動 ・あそぶつुकとの連携により、図書室の書架の整理や古い本の廃棄、月一回のオススメ本の展示など実施。 ・一年間を通し、昼休みに図書コーナーを多くの生徒が利用できるよう工夫した。 	B	<p>現在の取組を継続していくとともに、CSの取組の中で啓発する機会を設ける。</p>	A	
ニセコ高校	<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員会を中心とした、図書室の環境整備や新刊図書等の読書啓発を行ったが、効果的な読書習慣の向上にはまだ結び付いていない。 ・あそぶつुकの「立ち寄り図書館」に参加する生徒は増加傾向である。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・あそぶつुकとの連携を強化し、立ち寄り図書館の充実等をおして、読書習慣の定着を図っていく。 ・授業での図書室の活用等利用機会を増やす。 ・図書館が生徒の動線からはずれていることから、積極的図書館を活用できるよう、館内の整備や放課後の学習活動の場として利用できるよう工夫していく。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・読書は強制的にさせるものではないので、図書室に生徒が集まりやすい雰囲気づくり、居心地のよい環境づくりを進めてほしい。 ・あそぶつुक祭に際し、多くの幼児や小中学生、その保護者が参加してくれるのでニセコ高校のPRの場としても大変有効だと思うのでボランティア参加してほしい。

【No.4】 ・ 共通重点目標 いじめ・不登校児童生徒への対応と強化

・ 共通の評価の観点

- ① 児童生徒アンケートや職員交流による実態把握と情報共有
- ② いじめを生まない児童生徒の交流活動の推進
- ③ いじめに関する情報の組織的な共有

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
ニセコ小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・児童も保護者も楽しく学校で生活していると高く評価している。 ・年間2回のいじめアンケートと教育相談を実施した。教育相談については、じっくりと子どもと話をするために相談期間を1週間長くしたが、「アンケートや教育相談などでいじめの実態把握に努めている」の質問項目の保護者の評価は低い。 ・休み時間には、担任は職員室に戻らずに教室で子どもたちの様子を観察した。また、全職員で教室以外の場所での子どもたちの様子の観察に努めた。 ・月1回の児童理解交流会を行い、いじめや不登校児童の情報共有をし、改善策を立てて指導にあたった。 ・スクールカウンセラーに来校してもらい、児童の観察や保護者面談を行ってもらった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も年間2回のいじめアンケートと教育相談、月1回の児童理解交流会を行う。教育相談については、今年度以上に丁寧な聞き取りを行い、子どものなやみや心配事の解決につなげる。 ・小さいいじめやトラブルでも保護者に確実に連絡する。 ・支援が必要な児童に対する温かく認めてあげられる学級集団づくりに努める。 ・学校以外の少年団等での活動の把握に努める。 ・次年度もスクールカウンセラーと連携して、児童の観察や保護者面談を行ってもらおう。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生活・学習アンケートでは、「学校が好き」と回答した6年生は11%と低くなっている。勉強が難しいことから来るものでしょうね。 ・親自身の自己肯定感が低いと思う。一緒に喜んでくれる親が少なくなったと思う。 ・担任の先生も教室にいて観察しているのが良い。また、面談を年2回行っているのも良い。
近藤小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員で、日常的な児童間の言動を観察し適宜指導を行ってきた。 ・期末実施のいじめアンケートを通し、各担任が主体となり個別指導を実践して児童の内面をケアしてきた。養護教諭による教育相談も適宜行っていた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・児童間の適切な言動を維持すると共に、些細なトラブルにも仲裁指導を行い善悪の判断がつく指導をしていく。 ・全職員が連携する指導体制を維持し、適宜、職員室内で話題にできる雰囲気にする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・本校児童にはいじめや不登校の傾向がない。しかし、中学校に通う頃に地域の違いから、いじめにあたりや疎外を感じたりすることが心配である。今の内から、共に活動できる学習を積極的にさせてあげてほしい。
ニセコ中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導交流により定期的な状況確認の実施。 ・生徒のアンケートおよび面談により確実に状況を把握。 ・スクールカウンセラー、ソーシャルワーカーと連携。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 不登校に関して、学校でできる取組に限界があるため、町やCSと協働で進めていくことが必要である。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校について、地域と連携した取組が必要である。

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
ニセコ 高校	<ul style="list-style-type: none"> ・年4回のいじめアンケートを実施して実態把握に努めた。また、生徒の状況把握のため生徒情報共有フォルダを設けて情報の共有化を進めた。 ・規律委員会が中心になり、情報通信の安全安心な利用のための標語づくりに応募して、北海道総合通信局長賞を受賞した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ根絶に向けた年間計画を作成し、全校集会での啓発や定点調査等を着実に実施していく。 ・SNSの利用については、家庭との連携を密にして、継続指導していく。 ・家庭との連携については、担任が窓口となるが、いじめ防止委員会で組織的に対応する体制を維持していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒と先生の信頼関係を構築して生徒の心情に寄り添う指導をお願いしたい。 ・SNSの利用で誹謗中傷等の書き込みからいじめに繋がらないマナー指導が必要である。

- 【No.5】 ・共通重点目標 基本的生活習慣の定着・向上
 ・共通の評価の観点
- ① 家庭との連携
 - ② 生活学習アンケートの実施
 - ③ 生活習慣の把握、定着

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
幼児セ ンター	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい生活リズムについては、担任やお便り等で知らせている。保護者にアンケートは実施できたが、結果を通しての発信は足りなかった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果をもとに、園だよりや懇談会を通して生活リズムを整えて行くことの大切さを早めに伝えていけるようにしていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣の基本は親であるが、最低限のことが身につけられるよう、組織的な取り組みを進めて欲しい。
ニセコ 小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・懇談やおたより等で教育方針や子どもたちの様子を伝えていくが、家庭との連携については、保護者の評価は、高いとはいえない。 ・7月に全校児童を対象とした生活・学習アンケートを行い、生活習慣の把握に努めた。 ・保護者向けに生活・学習習慣についての校長講話を参観日や就学児検診等で実施した。 ・児童会や職員によるあいさつ運動を実施した。保護者のあいさつに対する評価は、高くはないが一昨年よりも0.3ポイント高くなっている。 ・食育指導では、ごはんをしっかりと取ることの大切さを全学年において指導した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・懇談やおたより等で教育方針や子どもの様子をしっかりと伝えていく。 ・次年度も生活・学習アンケートを行い、生活習慣の改善につなげていく。 ・生活・学習習慣についての講話を行うとともに、紙面での情報提供も積極的に行っていく。 ・あいさつについては、成果が出ているので引き続き児童会や職員によるあいさつ運動を実施するとともに、普段から教師が範を示していく。 ・基本的生活習慣の定着・向上に向けて、全学年においてごはんをしっかりと食べることの大切さを指導するとともに、保健指導ではしっかりと睡眠を取るものの大切さを指導することに努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・最近、外で会うと挨拶が帰ってくるようになった。 ・基本的生活習慣の定着は、家庭との協力が大切である。 ・懇談やおたよりで学校の様子を伝えていと思うが、保護者の評価は低いですね。 ・家庭での食事では、好き嫌いをする子が多いが、給食は食べているようですね。 ・いくらおたよりを出しても読まない親は、読まない。 ・引き続き啓発活動を行っていく必要がある。

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
近藤 小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで挨拶する児童が増えてきた。外国語活動のある水曜日には英語をつかって挨拶する姿が常態化してきた。 ・生活面で親子の関わりに苦しむ姿も見られ、学校との情報交換を重ね改善を目指してきた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・自発的に挨拶ができる児童集団を維持すると共に、場に応じた態度についても指導していく。 ・保護者の教育相談で得た情報を共有し、生活習慣の改善を目指し指導していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで挨拶しているが、今ひとつ元気がない感想をもつ。もう少し元気が出るとよい。
ニセコ 中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・校長会アンケートを実施。 ・挨拶運動と毎日の登校時生徒観察の実施 	B	ニセコは「児童生徒が早寝早起き朝ごはん、挨拶がみんなできている町」宣言をするなどして啓発していくことで効果が更に上がると考えられる。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・校長会アンケートの時期を6月ではなく、12月頃に行う事で学校評価に反映できるのではないかと。
ニセコ 高校	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導部を中心とした登校指導を実施して、服装や頭髮の指導、挨拶の励行を継続的に行った。 ・「学校だより」や「生徒指導部だより」を活用して家庭と共通理解のもと基本的な生活習慣の定着に取り組んだ。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・情報処理の授業や規律委員会を通じてパソコンやゲーム、SNS等の利用について生徒にしっかりと考えさせていく。 ・担任が積極的に家庭へ情報提供することで、学校と家庭が連携を図り、共通の認識で双方向から指導できる体制をつくっていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSを使った個人情報の漏洩やなりすまし等の詐欺に遭わない安全指導を継続させ、将来、自分自身を守る術を在学中にしっかりと身に付けさせてほしい。

【No.6】 ・ 共通重点目標 地域との連携

・ 共通の評価の観点

- ① 地域の方をゲストティーチャーに迎えるなど、積極的な外部人材や地域の教育資源の活用
- ② 地域の関係機関との連携

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
幼児センター	<p>・学校交流はねらいをもって行うことが出来た。今年度、高校生との交流は回数を多く行うことが出来、より充実できた。</p>	A	<p>・今後も、単発的な交流とならないようにして、交流が充実したものとなるよう、計画していく。</p>	A	<p>・地域資源や人材を活用した保育の展開を、継続して行って欲しい。</p>
ニセコ小学校	<p>・外部人材の活用については三者ともに評価が高い。</p> <p>・HISとの交流学习、役場国際交流員との交流等で外国語や外国文化と触れ合う機会を多くもてた。</p> <p>・今年度もあそぶっくの職員による読み聞かせ、役場農政課・町内農家との農業体験、町内のレストランのシェフによるPTA料理教室を行った。</p> <p>・KDDI職員による携帯・インターネット安全教室、劇団四季による美しい日本語の話し方教室等、町外の方にも講師になってもらい行事を行った。</p> <p>・スキー学習や登山遠足、ヘリポートを活用したヘリコプター搭乗体験、町内ホテルを利用した観光客意識調査などニセコの地域性を生かした授業も行った。</p>	B	<p>・読み聞かせや農業体験などの外部人材による授業は、子どもの興味・関心を高め教育効果も高まっているので、次年度以降も継続していきたい。CSが実施されれば新たな外部人材による授業も可能になると考える。そのために行事の時間の精選などを行っていく必要がある。</p>	B	<p>・外部の方を読んで授業を行うことで授業時間に支障をきたすことはないんですか？</p> <p>・やっていることの検証をする必要がある。</p> <p>・CSが始まれば外部との交流が強まると思うので、今後も継続して取り組んでもらいたい。</p>
近藤小学校	<p>・学校だより・学級だより、或いはHPを通して、積極的に情報発信してきた。総合的な学習では地域の方に米の取材をするなど活用実践できた。ふれあい学習では、地域の方に来校していただき、児童は共に昔遊びを介してコミュニケーションを図った。</p>	A	<p>・学校が発信する情報は、今後もよりよく伝わるように改善していく。</p> <p>・地域人材の活用は、CSの関わりも視野に入れ、可能な範囲で教育課程に位置付けていく。</p>	A	<p>・学習活動で地域の人材が活用されていてよい。今後はCSの関わりも必要になって来る。</p> <p>・学級担任と保護者との話し合いの場の他に、保護者が管理職と話をするとさらによい。</p>

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
ニセコ中学校	・総合的な学習の時間や特別活動、体育、道徳等において職業観の育成や道徳心の向上等を目的とした授業の実施。	A	・CSとの連携でさらに充実させられる。	A	・CSへの期待も大きい。
ニセコ高校	・農業や観光の授業を中心に、積極的に地域人材を迎えた授業や実習を実施することができた。 ・農業クラブを中心とした地域に根ざした活動を展開することができた。 ・幼児センターとの交流や近藤小学校やインターナショナルスクールでの花壇植栽など地域との幅広い交流活動ができた。	A	・地域の学校として、ニセコ町の基幹産業である「農業」と「観光」を軸に地域に根ざした教育活動と地域課題解決に向けた情報発信を継続して実施する。	A	・さまざまな交流活動や地域イベントへの参加、花壇造成等地域に根付いた教育活動を行っているので継続してほしい。 ・ニセコ高校の特色である観光教育の充実を図り、生徒の興味や関心を伸ばす機会を増やしてほしい。 ・教員の研修機会を増やし、外部での研修成果を一層生徒に還元するような取組をお願いしたい

【No. 7】 ・ 共通重点目標 学校間の連携

・ 共通の評価の観点

- ① 学校間相互による参観の実施
- ② 学校間相互による交流や乗り入れ授業
- ③ CSを含めた小中一貫教育の理解

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
幼児センター	・参観日等の交流はなかなかできなかったが、二小の地域参観日に参加させていただき、子ども達は学校への興味や関心をもつことができた。 ・次年度入学する園児（支援を必要とする）についても保護者交えて連携を行うことが出来た。	B	・教育要領・保育要領も幼児期の終わりまでに育てて欲しい姿が明確化されるので、職員で確認し、よりスムーズに小学校へ上がれるようにしていきたい。	A	・幼小の円滑なつながりからも、お互いの参観したり、指導方法を学んだり、実践交流する体制作りが出来ればよい。 ・CS、小中一貫教育も始まるので連携して進めていけると良い。

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
ニセコ小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・近藤小学校、ニセコ中学校、幼児センターへの参観を行った。 ・ニセコ高校教諭による英語の乗り入れ授業を行った。(12月20日5年1組) ・小小連携に課題がある。 ・CSを含めた小中一貫教育について課題がある。 ・地域参観日では、1、2年生のフェスティバルに幼児センターのくま組の幼児を招待した。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も学校間相互の参観を実施する。 ・CSや小中一貫教育については会議や活動の様子をその都度職員に情報提供していく。また、町主催の研修会などには積極的に参加していく。 ・小小連携は、しっかりと計画を立てていく必要がある。 ・次年度は、外部の会議も多くもたれることが予想されるために、早めの日程調整に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新一年生の一日入学では、五年生が頑張っていた。 ・幼小の連携では、できることや困っていることなどを話し合う場を持つことが大切である。 ・これからは、もう少し系統的な指導が大切になると思う。 ・先生同士の密な話し合いが課題である。
近藤小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・3・4・5学年が小小交流を実践し、児童は集団の中で効果的に関わりをもつことができた。今年度は1回ずつの学習に留まった。 ・中学校英語教師の乗り入れ授業を行い、楽しく活気のある学習ができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・小小交流は、中学年以上で適った。年間を通して共に活動できる期間の模索や、時程のずれを解消していくことも視野に全学年で継続させていく。 ・H30の英語科先行実施に向けて、今年度も乗り入れ授業を継続的に予定する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・可能な範囲で回数を増やすとよい。中学校の入学に向けて、両校の同級生が近い関係になることが願いである。
ニセコ中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・近藤小学校へ、英語教諭による乗り入れ授業を実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 小中一貫教育の取組の具体化によりさらに進められる。 	A	
ニセコ高校	<ul style="list-style-type: none"> ・英語での中学校との連携授業を実施することはできたが、学校間の相互参観などはあまりできなかった。 ・小中一貫教育の一つとして、小学校での英語授業への協力を行った。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・CSや小中高一貫教育の推進に向けて教職員の共通理解を図り、学校間の教職員のつながりを強化していく。 ・教科の教員同士の乗り入れ授業や授業参観を積極的に推進する。 ・中学校の総合的な学習などで、本校生徒の活動を紹介するなど、学校間の連携・接続を強化していきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・英語教育の充実等学校内の取組だけでは難しいと思うので、学校間での連携や外部人材(外国人)の活用等積極的に取り組む必要がある。 ・実績発表大会の内容や活動報告会で紹介された取組は素晴らしいので、中学生にも聞かせる機会をつくってほしい。

4 ニセコ町全体としての評価のまとめ

7つの共通重点目標に係る各学校・幼児センターの評価結果を基に、共通の評価の観点により同じ視点で評価を行い、ニセコ町全体としての評価結果をまとめました。以下、共通の評価の観点ごとにまとめています。

- 【No.1】 共通重点目標 「分かる授業」を目指した授業改善の推進
(幼児センター：「楽しく遊ぶ」ことができる環境構成)

「共通の評価の観点」

① 授業改善のための校内研修の充実

各学校・幼児センターでは、校内研修及び公開研究授業を積極的に実施しました。次期学習指導要領を視野に入れた研修も進められています。今後も、校内研修の取組を積極的に行ない、授業改善や充実した保育に活かすよう努めるとともに、これらの成果が幼児児童生徒へ還元されているか確認をしていく必要があります。

② 効果的な指導方法や指導形態の工夫

ICT機器の活用によるわかりやすい授業づくりや、加配教員を活用したチームティーチングや習熟度別学習などきめ細やかな学習指導が行われています。児童生徒からは、楽しい・わかりやすいといった評価があり、保護者・学校関係者評価でも非常に高い評価を得ています。今後も子どもの主体的な学び合いによるアクティブラーニングの導入等、楽しい・わかる授業づくりを進める必要があります。

③ 教育課程改善に向けての取組

各学校において、研修などの成果の活用を図りながら、教育課程の改善に向けて進めています。平成28年度は小中一貫教育検討協議会において、一貫した英語教育、学習規律を中心としたニセコスタンダード、総合的な学習の時間を活用したふるさと学習（「ニセコ学」）についての検討が始まっています。学習内容の連続性や地域との連携を踏まえた教育課程について継続した検討が必要です。

④ 児童生徒アンケートの結果

児童生徒のアンケートを取ることで、児童生徒の苦手な点や改善すべき点が明らかになります。各学校では児童生徒アンケートの結果を踏まえた指導方法の改善や工夫を行い、授業に対する評価が上がっています。授業改善の取組が児童生徒自身の理解や学力向上につながっているか、継続して確認していく必要があります。

【No.2】 共通重点目標 特別支援教育の充実

「共通の評価の観点」

① 配慮を要する幼児、児童生徒に対する支援のための研修の充実

各学校等において、パートナーティーチャー派遣事業の活用、スクールカウンセラー訪問、保健師などと連携し、それぞれの助言を受けながら支援の充実を図っています。特別支援に関する校内研修に努めており、研修会の成果を特別な支援が必要な子どもたちへの支援充実に生かしています。今後も幅広く研修に参加をすることができる態勢を整えていく必要があります。

② 個別の教育支援、指導計画の作成・実施

個別支援計画・指導計画にあたっては、各学校等で保護者の考えや意向を踏まえて作成を行っています。特別支援学級のほか、通常学級在籍の子どもたちについて計画を作成することは、保護者及び学校間の連携を進めていくうえで必要です。近藤小学校では、個人カルテの作成・更新の取組が進められており、一人ひとりに応じた支援の体制づくりが進められています。

③ 特別支援学級への校内支援体制の充実

各学校では校内研修に加え、校外の特別支援に関する研修にも積極的に参加できる研修体制の充実を図ったり、ニセコ町教育支援委員会の特別支援活動補助を活用し、医療機関等の連携を図ったりしています。各学校等においては、校内の特別支援委員会を開催し、特別支援学級や通常学級に在籍する特別な支援が必要な子どもたちについて、教職員全体で支援体制や支援の方法についての確認を行い、共通の指導ができるようにしています。

④ 特別支援教育への保護者理解・児童生徒相互理解

ニセコ町教育支援委員会では、教育支援リーフレット「子どもたちの未来を応援するために」を作成し、幼児センター・各学校の保護者に配布し、特別支援教育について理解を深めてもらっています。しかし、保護者の理解が十分ではない、理解を得るのが難しいという声もあることから、特別支援教育について学ぶ場を設けるなど、さらに継続した取組が必要です。

【No.3】 共通重点目標 読書活動の推進

「共通の評価の観点」

① 朝読書（一斉読書）の取組状況

幼児センターでは絵本の読み聞かせを毎日実施し、小中学校においては朝読書を定期的に実施するなど、一斉読書の取組が定着しています。高校においては、イベント（立ち寄り図書館）や図書委員会による読書啓発が行われています。今後もこの取組を継続していくことで、読書への興味・感心を高めていきます。

② 図書館利用、読書活動の状況

あそぶっくの会の協力を得て実施している読書イベントや図書委員会の活動などを通して、図書室の利用を促しています。今後も学校図書室支援員によるサポートを活用しながら、読書活動の充実と図書室の整備を進めていく必要があります。

また、保護者の協力を得ながら、家庭での読書習慣定着を進める必要があります。

③ 「あそぶっく」との連携

学校図書活動においてあそぶっくの会の存在はたいへん大きなものとなっています。高校においても、あそぶっくの会の協力により「立ち寄り図書館」を実施し、生徒が本に興味を持つきっかけづくりを行っています。

今後は、あそぶっくの会の活動（あそぶっく祭など）へ児童生徒が参加することも期待されます。

【No.4】 共通重点目標 いじめ・不登校児童生徒への対応と強化

「共通の評価の観点」

① 児童生徒アンケートや職員交流による実態把握と情報共有

各学校において、児童生徒に対していじめに関するアンケートを実施し、アンケートの結果によって児童生徒と教員が個別に教育相談による対応を行っています。把握した情報は校内で情報共有を行い、学校全体で児童生徒を見守る態勢をとったり、スクールカウンセラーとの連携により、保護者・児童生徒との交流・面談を実施しています。

② いじめを生まない児童生徒の交流活動の推進

各学校等においては、子どもたちの交流活動が様々行われており、子ども同士がお互いを理解したり、信頼関係を築いたり、コミュニケーション能力を育成したりする良い機会であると捉えています。ニセコ高校においてはSNSの使用を認めることとしましたが、生徒自らによる安全安心な利用を促すため、標語づくりコンクールに応募しました。

また、中学校へのスムーズな接続の観点から、近藤小学校の児童が中学校進学時に疎外感を感じないように、積極的な交流活動が望まれます。

③ いじめに関する情報の組織的な共有

各学校においては、定期的な教育相談やアンケートなどが行われており、これらの結果を全職員で共有するなど、組織的な対応に努めています。

また、学校だけの対応が難しいケースについては、児童相談所との連携やスクールソーシャルワーカーの活用などを行っていく必要があります。

【No.5】 共通重点目標 基本的生活習慣の定着・向上

「共通の評価の観点」

① 家庭との連携

参観日等での懇談、お便りなどにより生活習慣や学習習慣の定着について、家庭に対する啓発活動が行われています。基本的生活習慣の定着は学校だけではなく、家庭の理解と協力が不可欠なことから、引き続き情報提供など、連携を図っていく必要があります。

② 生活学習アンケートの実施

ニセコ町校長会が主体となって児童生徒の生活学習アンケートを実施しました。実施結果を活用の分析や結果を活用した取組が求められます。

③ 生活習慣の把握、定着

進んであいさつをする児童生徒が増えていることが評価されています。こうした取組が定着するよう、さらに家庭や地域と連携した取組を継続していく必要があります。また、早寝早起き、朝ごはんなど、基本的生活習慣の定着・向上を図っていくことが大切です。

【No.6】 共通重点目標 地域との連携

「共通の評価の観点」

① 地域の方のゲストティーチャーなど、積極的な外部人材の活用

② 地域の関係機関との連携

本年度も各学校等において、町内の外部人材による様々な体験学習や講演、学習活動が実施され、主な各学校等の取組は、次のとおりです。

【幼児センター】

寿大学との交流、あそぶつく読み聞かせ、交通安全指導、クラシックコンサート、ニセコハイソ敬老会、焼き芋パーティ、クリスマス会、ニセコ高校生菜園づくり

【ニセコ小学校】

携帯・インターネット教室、劇団四季「美しい日本語の話し方教室」、交通安全教室、

米づくり体験、インターナショナルスクールとの交流、PTA奉仕作業、国際交流員による国際交流事業、子ども110番模擬訓練、学芸会活動のゲストティーチャー、ブックフェスティバル、あそぶっくの会読み聞かせ

【近藤小学校】

交通安全青空教室、米づくり体験、クリーン作戦、国際交流員による国際交流事業あそぶっくの会読み聞かせ、ふれあい交流会、ハイツ訪問、クロカン記録会

【ニセコ中学校】

アスリート訪問、まちづくり（自治創生）学習、町内企業への職業体験学習、国際交流員との交流学习、幼児センター交流、Englishトライアル

【ニセコ高等学校】

インターンシップ、薬物乱用教室、JAようてい祭参加、ニセコマラソンフェスティバル全校参加、ニセコ産業祭、あそぶっく立ち寄り図書館、学校祭、ホテルサービス体験学習、農業コース特別授業、札幌国際大学特別講義、YTLスクールズ交流、卒業生講話

以上のとおり、外部人材を活用した様々な取組を実施しており、児童生徒や保護者からの評価も高くなっています。今後も地域の人材を活かした教育活動を進めていく必要があります。

【No.7】 共通重点目標 学校間の連携

「共通の評価の観点」

① 学校間相互による参観の実施

学校間の相互参観は行うことはできたものの、回数を多くはできませんでした。一貫教育を進めていく上で、教職員の相互理解が重要なことから、次年度以降も学校間相互の参観を実施していく必要があります。

② 学校間相互による交流や乗り入れ授業

幼児センター園児がニセコ小学校の地域参観日に参加したり、ニセコ小学校・近藤小学校の3・4・5年生児童小小交流をしたり、中学校・高校の英語担当教諭が小学校の外国語活動の授業へ乗入れたりするなど、交流・乗り入れ授業が行われた。今後はさらに計画的に進めていく必要があります。

③ CSを含めた小中一貫教育の理解

CSや小中一貫教育について、教職員の理解を深めるため、資料を配布するなど情報提供を行いました。また、1月には町内の教職員が一同に会し、CSや小中一貫教育に関する研修会を開催しました。ニセコスタイルの教育を推進するため、継続した理解促進の取組が必要です。

5 今後の取組について

ニセコ町教育委員会では、学校と家庭・地域が目標や課題を共有し、ニセコの環境を生かした特色ある学校づくりを進めるため、平成29年度から全ての学校に学校運営協議会を設置（コミュニティ・スクール）します。また、英語教育や学習習慣・生活習慣（ニセコスタンダード）、ふるさと教育（ニセコ学）などの分野を中心に、幼児センターから高校まで連続した一貫性のあるニセコスタイルの教育を進めていきます。

学校評価委員会の取組については、今後もコミュニティ・スクールの中で、学校の垣根を越えて、子どもたちの成長に関して同じ目線で考え、その成長と課題を全体で確認する取組として継続します。

また、評価が適正に行われるよう、指標の共通化するなど、より充実した評価方法の検討を行い、さらに深みを増した学校評価の取組を進めていきます。

◎ ニセコ町学校評価委員会 構成委員

区 分	職 名	氏 名
近藤小学校	校 長 (ニセコ町学校評価委員会 委員長)	小中 憲雄
ニセコ中学校	校 長 (ニセコ町学校評価委員会 副委員長)	渡邊 均
ニセコ小学校	校 長	飯田 富男
ニセコ高等学校	校 長	田邊 裕二
幼児センター	園 長	酒井 葉子
ニセコ町PTA連合会	副会長	萬谷 政博
地域住民等	NPO法人あそぶっくの会理事	矢島 誠
事務局	教育長	菊地 博
事務局	学校教育課長	加藤 紀孝
事務局	学校教育係長	淵野 伸隆
事務局	学校教育係主事	笹森 翔一

(任期 平成28年4月1日～平成29年3月31日)